

移民の歴史

キューバへの日本人の移住は、1898年に始まりました。その後第1次世界大戦中のキューバの砂糖景気に乗って、日本や近隣の南北アメリカ大陸諸国から1926年頃を最盛期として、1930年代半ばまで、多くの人々がキューバに移住しました。現在でも約1,200名の日系人がキューバ社会の一員として、農業、商業、芸術などさまざまな分野で活躍しています。日系人は青年の島とハバナに集中しており、それぞれ盆祭りなどを開催して、日系人間の親交を図り、日本の伝統・文化を次世代に引き継ぐように努めています。なお、移民者の出身地は、沖縄県、鹿児島県、熊本県、福岡県、広島県、長野県、新潟県、福島県、宮城県等となっています。

(参照:外務省国別評価2013年)

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/cuba/pdfs/kn12_05_01.pdf